

カケス *Garrulus glandarius* (懸巢)

(撮影：山上)

識別のポイント

- ・身体全体がベージュ色に見え、飛ぶと翼の白と水色の模様が目立つ。腰も白い。
- ・「ジャー」と鳴いてひらひらと飛ぶ。

大 き さ：ハトくらい

生息環境：低地～山地の森林

繁殖場所：樹上

餌：昆虫、木の実など

鳴 き 声：「ジャー」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の林に生息する。
- ・木の実、昆虫などを食べ、また、ドングリを貯える性質があり、冬から春にかけての食糧として利用する。
- ・「ジャー」というような濁った声で鳴くが、他の鳥や、時にはネコの声やサイレンの音などを鳴き真似する。他の鳥のさえずりなどは非常に上手く真似るが、間に必ず「ジャー」と入るのですぐに正体がばれる。

天竜川上流における生息状況

留鳥として、主にダム湖や渓谷部の森林内で見られる。また、秋には一部が暖かい地方へ移動しているようで、数10羽の群れが見られることがある。

天竜川上流における分布



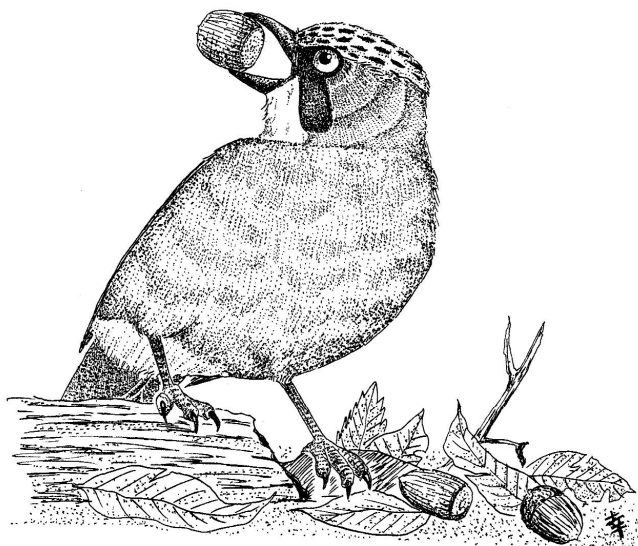
コラム ドングリを運ぶ鳥 - カケス

森林帯を流れる天竜川では、カケスをよく見かけます。飛翔している時、尾の付け根の白さが目立つ鳥です。伊那谷ではカケスのことを『カシドリ』と呼んでいます。

カシとは、天竜峡以南の天竜川沿いに見られるアラカシやシラカシといったドングリの実をつける木です。カケスは秋になると、こうしたドングリをのど袋に詰め込んで運びます。1回に12個のドングリを運ぶこともあり、のど元のふくらみも観察できます。運ばれたドングリは土の中に突っ込むように隠されます。カケスはそれらの隠し場所を覚えていて、後日、掘り起こして食べるのです。多量のドングリをつける木には1km以上離れた所からでも集まってきます。

また、お世辞にも美しい鳴き声とは言えない独特の鳴き声から、『ギャーギャー』という名前も付けられています。

(吉田保晴)



オナガ *Cyanopica cyana* (尾長)

(撮影：山上)

識別のポイント

- ・名前の通り尾が長く、スマートな鳥。
- ・全体は水色で、頭は黒く、ベレー帽をかぶっているように見える。

大 き さ：ハトくらい

生息環境：低地～山地の集落、耕作地

繁殖場所：樹上

餌：昆虫、木の実など

鳴 き 声：「ゲェーイ」「キュイツ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：留鳥

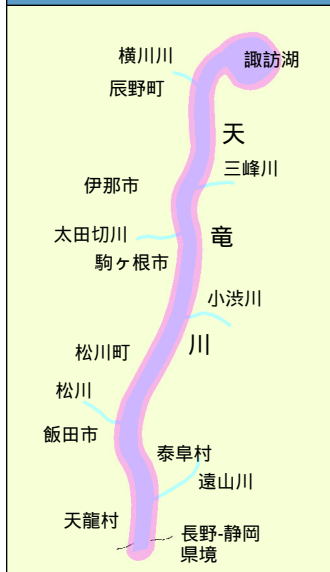
一般習性・分布

- ・留鳥として、主に岐阜および愛知以北の本州に分布するが、本州中部や関東以外では局地的。近年、新たに分布地が増える一方、九州ではかつて生息していたが、現在は見られないなど、分布域が変化している。低地から山地の人里付近に生息する。
- ・樹上で昆虫や木の実を食べることが多いが、地上で餌を探すこともある。熟したカキなどの果実も食べる。
- ・近年、カッコウに托卵されるようになり、分布域の変化と共に、カッコウに対する防衛策の獲得に興味を持たれている。

天竜川上流における生息状況

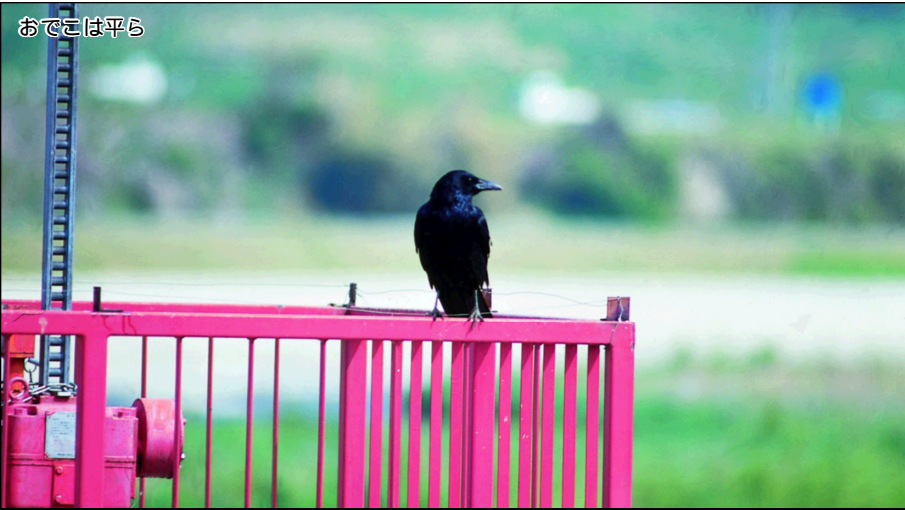
天竜川流域では、分布域が年ごとに拡大しており、今後の動きが注目されている。河川敷内では、ヤナギ林やハリエンジュ林内で、昆虫などの餌をとっている。

天竜川上流における分布



ハシボソガラス *Corvus corone* (嘴細鴉)

おでこは平ら



識別のポイント

- ・全身真っ黒の鳥。
- ・くちばしはあまり太くなく、おでこくちばしの境にあまり段差がない。

大 き さ：ラグビーボールくらいの大きさ

生息環境：低地～亜高山

繁殖場所：樹上

餌：雑食

鳴 き 声：「ガァー、ガァー」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

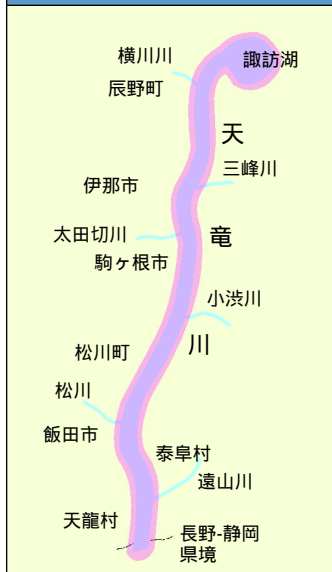
一般習性・分布

- ・留鳥として低地から亜高山の開けた場所に生息し、農耕地、河原などでよく見られる。かつては、ハシボソガラスは人里近くに、近縁のハシブトガラスは山に多いと言われていたが、近年はハシブトガラスが都市部へ大幅に分布地を広げたため、明確な分布の区分はできない。ただし、農村や集落周辺にはハシボソガラスが多い傾向にあることは確かである。
- ・木の枝の上に営巣し、小枝を主材として皿形の巣を造る。河原ではハリエンジュの高木の樹上にあることが多い。
- ・雑食性で、ゴミ捨て場などもあさり、鳥の卵やヒナも食べることがある。

天竜川上流における生息状況

全域で最も普通に見られる鳥のひとつ。主にハリエンジュの高木上に営巣する。秋から冬には数100羽がねぐら入り前の集合場所として河原を利用し、夜には段丘崖の竹林や樹林で、2,000～3,000羽以上集まってねぐらをとる（P.110参照）。

天竜川上流における分布

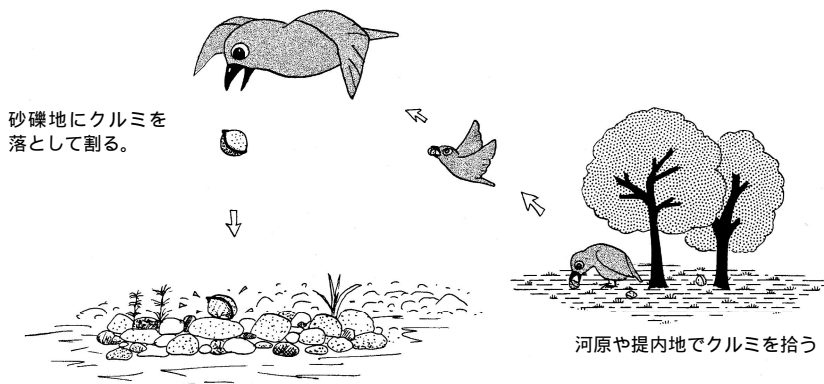


カラスの仲間は鳥の中でも最も知能が発達していると言われています。環境の変化に対する強さや飛翔能力の高さなど、他の鳥に比べて優れている点がたくさん挙げられます。そんなカラスにとって、固い殻に包まれたクルミを割って食べることなど、朝メシ前と言ったところなのでしょうか。天竜川の河原では、カラスが上手にクルミを割って食べているのを観察できます。

カラスは、クルミをくわえると上空10メートル近くまで舞い上がります。そして、河原の石めがけてクルミを落とします。1回で割れないときは、何回も繰り返し落とします。割れたクルミは、そばにいるカラスと奪い合ったりしながら中身を食べます。

カラスのクルミ割り行動は、全国各地から報告されています。クルミに限らず、貝なども同じような方法で食べるようです。さらに、クルミを舗装道路に置き、自動車に踏ませて中身を食べる行動も観察されています。また、カラスは「遊び」を知っている鳥でもあります。ある地方では、真冬の凍った坂道を逆さに（仰向けに）なって繰り返しすべりおりるという行動も観察されています。子孫を残すこと、生きていくことに常に精一杯というイメージの強い野生動物の中で、「遊び」を知っている鳥がいるとは驚きです。

河原では、カラスをはじめ、餌をめぐる鳥たちの工夫をいろいろと観察することができます。双眼鏡の視野に入った鳥たちが何をしているのか、そんなことを考えながら観察してみると、野鳥観察の楽しみがいっそう広がることでしょう。



カラスのクルミ割り

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* (嘴太鴉)

おでこは丸い



(撮影：松村)

識別のポイント

- ・ハシボソガラスによく似ているが、身体が一まわりほど大きい。くちばしも太い。
- ・くちばしとおでこに段差がある。

大 き さ：ハシボソガラスよりやや大きい

生息環境：低地～山地（主として山間部、市街地）

繁殖場所：樹上

餌：雑食

鳴 き 声：「カァ、カァ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



渡り区分：留鳥（天竜川本川では、繁殖期は見られないが、流域では留鳥）

一般習性・分布

- ・留鳥として市街地、農耕地、河原、海岸、原野、山地帯などあらゆる場所に生息する。近年話題になっている東京のカラスは、この種が中心である。日本で最も繁栄している鳥といえる。
- ・雑食性でいろいろなものを食べ、ゴミ捨て場や漁港など死肉がでる場所では大群が常駐していることもある。
- ・巣立ち直後の若鳥では、ハシボソガラスとの識別点であるおでこの形がはっきりせず、識別は難しい。また、一般にハシボソガラスは濁った声で、ハシブトガラスは澄んだ声で鳴くとも言われるが、両種ともさまざまな声音を使うため、声だけで識別することは難しい。

天竜川上流における生息状況

秋から冬に全域に生息するが、渓谷部などでは繁殖期に見られることもある。河川敷内では繁殖は確認していない。飯田市川路や辰野町荒神山付近などでは、ねぐら入り前に数100羽が集合する。ハシボソガラスと混群になってねぐら入りすることもある（P.112参照）。

天竜川上流における分布



伊那谷にいるカラスは、ハシボソガラスとハシブトガラスの2種類です。ハシボソガラスが人間の生活域を中心としているのに対し、ハシブトガラスは森林地帯でも生活しています。つまり、田園地帯でよく見かけるカラスの多くはハシボソガラスであり、ゴミを求めて高山帯まで入り込んでいるカラスはハシブトガラスといえます。

これらのカラスは夕方になると日中の生活域を離れ、一夜を過ごす「ねぐら」へ向かいます。このようなねぐらは繁殖期が過ぎた9月から目立つようになります。伊那谷のカラス達は、天竜川の河原や稲刈り跡のたんぼで群れになっています。この群れの大部分はハシボソガラスで占められています。そして中央アルプス^{あかね}が茜色に染まり出すころ、それぞれのねぐらへ向かいます。その飛行コースは天竜川や三峰川・小渋川・遠山川といった大きな河川に沿っています。

夕方、見晴らしのよい所で空を眺めてみましょう。集団でねぐらに向かうカラスを見ることができます。ねぐら近くでは、小集団が集まって大きくなった数百羽の群れをも見ることもできます。

現在、天竜川流域で500羽以上集合する大きなねぐらは、長谷村非持・松川町鶴部、飯田市天竜峡、天龍村平岡、南信濃村和田にあります。

（吉田保晴）



ねぐら入り前に集合したカラス